

佳作

大丈夫ですか

大阪府 大阪教育大学附属平野中学校三年 奥野 希美

あなたは言葉に助けられたことがあるだろうか。
小学三年生の時ある女性にかけられた言葉、それは

「大丈夫ですか。」

当時私は、雷が怖くて嫌いだっただ。習い事のあった日、激しい雷と大雨が降ってきて私はパニック状態に陥っていた。しかし、一人で電車に乗らなくてはならなかった。直前には停電が起こった。あまりの怖さに駅で泣き出してしまったのだ。しばらく出すような勇気をふるっていざ電車に乗ると誰一人騒ぐ人はおらず冷静だった。私だけこんな姿では恥ずかしいと必死に涙を落ち着かせようと席に座っていた。すると向かいのお姉さんが、

「どうしたの。大丈夫。」

と氣遣ってくれた。心配をかけるのは嫌だからす

ぐに

「大丈夫です。」

と答えた。だが、その様子がぎこちなかったからか「目的地まで一緒に行ってあげようか。」

とまで提案してくれた。初対面の人にこんなに親切にしてもらうなんて思っていなかったから雷の怖さもすぐに消え、落ち着くことが出来た。仕事終わりのなのに、とっさに人の気持ちに寄り添えるなんてすごいと思った。

駅に着いて降りる時、

「ありがとうございます。」

と感謝の気持ちを伝えると、

「いえいえ。当然の事をしたままでだよ。今度困っている人を見つけた時はあなたが代わりに助けてあげると言われたよ。」

と言われた。

この出来事は六年近くたった今でも鮮明に覚えている。あの人が勇気づけてくれたおかげで私は励まされたし、安心して無事習い事に行くことが出来た。あの人もう一度会って支えてくれたお礼と困っている時は誰でも助け合う優しさを教えてくれた感謝の気持ちを伝えたい。だけど、それはもう不可能だ

と分かっている。だから、今度は私が助ける側になり多くの人を助けたい。どんな小さな事でも私に出来るなら何事も積極的に、全力で取り組もうと改めて思った。

今まで、思いやりの心を持ち、誰にでも優しく対応できるような心掛けてきたつもりだ。でも実際はどうだろう。本当は手伝ってあげるべきなのに、迷惑になってしまうと勝手に決めつけて何度も見て見ぬふりをしてしまう事があった。

もう一度自分の行いを振り返り、人から助けてもらった感謝の気持ちを忘れず、恥ずかしさを断ち切って相手を最優先に気遣える人になりたい。